

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	たち		
○保護者評価実施期間	8年 2月 5日		8年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	8年 1月 29日		8年 2月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	8年 3月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間の風通しのよさ、離職率も低い。 日常業務でも支援の中でも互いにフォローする姿勢が確立している。	・どの職員に対しても業務についてもフォローできる職員体制が整っており、職員が安心して取り組める。 問題視される点や課題となる点についてはできる限り職員間で解決していくよう心がけている。 ・適切なアプローチをお互いに伝達・共有しあうことで次につなげる努力をして	・メリハリをつけた時間を意識づけていく。 ・対応力の向上
2	日々のスケジュール管理を綿密に作成しており各職員がわかりやすく動いている。	・得手不得手を考慮しながら活動へ反映させるよう考慮しているので抵抗なく行っている場合が多い。 ・全職員の動きがみやすく組まれていることで指示がとおりやすい。	・スケジュールの改善や補足について検討していく。 ・苦手意識のある点はフォローしあいながら各自のペースで挑戦してみる姿勢ももたせていく。
3	子どもたちにとって安心できる場であろうと職員が心がけている。	・適切な対応であったかを確認しあいながら対応をしている。本来の必要な支援として合致しえない点もあるかもしれないが利用者が安心して過ごせることを職員同士は何よりも重要視している。 ・見直した方がよい対応について職員間にて早めに検討。	・環境的な安心作りの形成。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援に関わる知識がすくなくスキルアップ不足。	・現状での支援に満足してしまっている職員もいる。 ・自主的に学ぼうとする意欲の欠如。	・実際取り組んでいる支援の中で具体的事例をもとに色々な角度での見方・捉え方・支援方法を事業所内にて行う時間作り。 ・社内・社外研修の積極的な参加。(パート職員も参加できるよう対応) ・PDCAの有効的な活用
2	継続して物事をすすめる力が欠けている。	・担当ではない・他の人がやってくれるといった他人感覚で業務をこなす。 ・片付けなどもとりあえず片付けておけばといった方法で行ってしまいがちなため徐々に積み重なってしまう。 ・役割があいまいな部分もある。	・優先順位を決め、役割・見直し・改善方法の手順といったことを検討していく。 ・全部を1からしっかりやるなど無理な希望はもたず、この箇所はある程度いいといった適当な方法を組みこませることで誰もが継続して行える業務を増やしていく。
3	叫び声や大きな声をだすことに苦手と感じる利用者に対して守る術がない。	・部屋の構造上、聞こえない空間作りは難しい。 ・外出することでの対応は可能であるが日によっては人員的に難しい場合もある。	・支援方法によって軽減できる部分については共有した対応ができるよう打合せ・話しこみを行う。 ・外出対応が柔軟に対応できる体制・工夫。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日				回収数	
たち		8年 3月 11日				37	24
チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	14	8		2	部屋は正直狭いと感じます。	狭いスペースを工夫しながら活動に取り組んでおります。
	2	22			2	送迎は本来2人と聞いたので配置数はどうなのかなと感じました。 職員さんが多く安心しています。	各ご利用者様たちの様子及び人数をみながら2人配置の有無を確認して行っております。どの体制でも安全第一に対応します。
	3	22			2	正直わかりません。	子どもたちにとって危険である箇所は早めの対応を行うよう心がけております。見直しはこまかく行うよう対応します。
	4	22			2		特に水回りは職員間でも指摘のある箇所です。子どもたちにも気持ちよくついていただけよう対応します。
適切な 支援の 提供	5	22			2		特性への理解を深められるよう職員間での話こみや研修の機会を積極的に取り入れます。
	6	24					月によっては偏りが生じる場合もありますが支援プログラムと支援内容がリンクするよう心がけております。
	7	24					保護者からの聞き取り、日々のお子様の様子や変化をみながら作成にあっております。
	8	22			2		具体性のあるお子さんとそうでないお子さんの差がでてしまうことがあり、今後細分化しながら支援内容にとり入れるよう努めてまいります。
	9	21	1		1		要所要所での見直しをはかって支援しております。
	10	24					はいと返さいただき大変ありがたく感じております。今後も現状にとらわれずプログラムを組み立てていきます。
	11	12	5	1	6	公園などではあるのかもれませんね。	所沢市の中では制限のある児童館もあり、交流の場が限られておりますが公園等も活用し交流する時間を作っています。
保護者 への 説明 等	12	23			1		ご契約時には説明をさせていただいております。
	13	23			1		12と同様です。 より丁寧な説明を行っていきます。
	14	20	1		3		保護者会を通じての情報共有は行っております。研修会の開催も検討してまいります。
	15	22	2			連絡ノートなどで教えてくださったり、LINEでも伝達してくれありがたく思っています。	健康状態についても日々できる限り確認するよう対応しております。 当日必要性にある状況については職員間で共有
	16	21			3	面談時に様子を教えてもらっています。	個別支援計画作成に伴い定期的に面談の場を設けております。保護者からの問い合わせについても早い段階で対応・返答しております。
	17	23				1	
18	19	3		2		保護者会・親子参加型に活動を取り入れております。なかなか多くみなさまの参加とはなりにくいですが今後も開催を定期的に行い、交流の場を設けてまいります。	

	19	子どもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19	1	4		お子様からの相談に対しては即座に応じることがもちろん、保護者からの相談・申し入れに対しても相談内容によって対応する職員をわけております。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	22		2		お子様・保護者のご意思のくみ取りをはかれるよう職員間で配慮するようにしております。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	19	1	4	たち通信・Instagram楽しみしています。	たち通信発行・SNS等で日々の様子をお伝えしております。自己評価はホームページにてご覧いただけます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	23		1		つい・うっかりといったことがないように常にこの対応は大丈夫か意識付けをしております。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20	1	3		マニュアルはまとめて誰でも閲覧可能なように対応しております。周知の点が弱いので見学・ご契約時の場を通じて確認していただくよう今後対応いたします。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	20	1	3	定期的に避難訓練行っています。	定期的な避難訓練を行っております。が今後非常災害のパターンを広げて訓練を検討していきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	22	1	1		活動において安全が確保されることを考慮しながら進めております。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	22	1	1	細かいことでもすぐにお知らせいただいています。	事故の発生は今年度においてはございませんでしたが発生した際の連絡等についてご契約時に説明を行っております。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	23		1	毎回通所を楽しみにしております。色々な体験をさせていただいてありがとうございます。	まずはありがたいお言葉大変ありがとうございます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	20	2	1	デイだからこそのお友達との関わり方など見守っていただきありがとうございます。	放課後というお子様たちにとっては貴重な時間、たちにて活動に参加していただき誠にありがとうございます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	24			子どもも今後よろしく願いいたします。	お言葉にもございましたが放課後等デイサービスだからその異学年同士の交流を今後も大切にしながら取

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	たち				公表日	8年 3月 11日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	2	人数が多いときは区切りをするなど有効的な活用をしています。	利用定員とスペースは変更できない分、活動内容に焦点をあわせて対応いたします。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	3	個別対応、全体を仕切る職員の区分けを行いながら日々の活動予定を作成しております。	送迎人員と支援体制とのバランスの偏り。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	3	部分的な見直しをはかりながら環境整備を行っております。	共有性・継続することが困難になりやすい点。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	3	活動時間を通してリラックススペースを作成。自分たちで作成したことでより過ごしやすくなっております。	洗面所・台所等水回りを中心とした清潔保持の徹底。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	3	着替え・個別対応等限られた中でも使い分けできるよう時間にあわせて対応できております。	複数に対しての個別の場所確保ができていない。形式にとらわれず検討していきます。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	11	1	気になる点については職員間で相談できる体制は整えております。	改善点を見いだすことを行うように対応してはいるが途中停止してしまう点をどうつないでいくかが課題です。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	1	例年各保護者に依頼をし、集計を行っております。	毎年ほぼ内容が同じため、保護者からのコメント減少。業務改善をすすめるとともに、保護者の声を伺える内容も検討していきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	2	職員の意見に対して特別な時間を要していることは殆どないが気になる点等を含めて打合せをして改善にあたっております。	相談しあった日から月日が経過するとおざなりになりがちになってしまうので計画的に取り組む体制を整えてまいります。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	5		会社単位で相談し、取り入れを考えていきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12		正規職員は定期的に社内研修の参加を行っており、職員としては多方面で学びの場と感じております。	パート職員の研修時間の確保。
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	12		保護者の方に協力いただき、面談上での様子や日々の様子をふまえて計画を作成しております。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11	1	児童発達支援管理責任者のもと、話し合いの場をつくっており、時間・形態は様々です。	全職員に対して共有、すり合わせ業務が必要。支援現場になるとなかなか活用しきれていない部分もあります。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11	1		取組んだ結果からのステップアップ。計画が計画で終わらないための支援方法を考慮していく体制作り。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	3		漠然としたアセスメントからよりきめ細やかな行動観察ができる流れを形成していけるよう方法を検討していきます。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10	2	本人支援については各利用者に対しての支援内容は具体性をもって打ちだしています。保護者からの様子もふまえてできるだけ具体性のある内容を目指しております。	本人支援以外の支援内容がありきたりになりやすいです。 具体性にかけてしまいみんな同じような内容となってしまっています。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	3	基本的には担当者だが話し合いや調整を行いチームとして行う部分もあります。	限られた人数でのチームでの取り組み方。 単発でなく継続していく方法。

支 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	2	数年行っているので固定化しやすいので春夏秋冬での創作や行事等、工夫しながらとりかかろうと努めています。	活動の取り組み自体変化していくであろう点から多様性をもったプログラムを検討します。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	12		個別・集団活動の組み合わせからさらに個々での対応もみながら支援にあたっております。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12		午前・午後ともに役割の確認を行い、見直し変更しながら円滑にすすめるよう時間を活用しております。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	3	人員体制により時間が限られているので当日中での伝達か明日以降での伝達のみか内容によって振り返りすることを使い分けております。	記録の共有。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12		記録を複数とっています。個別にあたっては担当したものが記録をするなどできる限り具体的な支援の内容をとるように努めております。	限られた時間での対応のため、内容が継続せず途切れてしまう場合があります。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	3		全利用者への対応が適切ではない点。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9	3		全職員が認識した取り組み。意識。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10	2	創作等で自分で選ぶことを行っている場合もあるが活動としてはあまりない。順番や選択肢のあるものから決める場面を作っております。	利用者の特性に合わせた方法を考慮しながら活動内に取り入れていきます。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11	1	基本的には担当者会議は児童発達支援管理責任者が対応。計画を作成するにあたり、適任と判断。	視野を広げた支援・経験を積むことを考慮して関係機関会議などは参加する者を今後増やしていく方向で検討していきます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10	2		一部の利用者だけになりがちのため、情報や関係性がうすい利用者も多いです。身近な関係機関を通してつながりを広げていけるよう対応。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	12		学校は格差があるものの保護者とのやりとりは円滑に行われています。具体的な様子をお知らせいただきありがたい学校もあります。	学校によって違いがあり、協力がえにくい場合があります。関係性をどうつなげていけるかが課題。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	3	見学対応時にできるだけ保育所・児童発達支援事業所情報を保護者より伺うようにしております。	保護者からのみとなり先生方から伺うことができていません。どう関係性を築いていけるか。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8	4	学校・保護者より情報をいただき移行先はお伺いしている。が支援二乗法の提供にはいたっておりません。	相談支援専門員さんの協力をえながらパイプをつなげていけるよう対応していきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	10	2		今後連携を図ることをめざし、関係性を築いていけるよう、研修などの積極的に参加していきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	11	1	イベント（ハロウィン等）での交流はもっている。同グループ内での交流会を定期的に行っております。	児童館の対応の違い。地域のこどもたちと関わる（公園などでも機会は少ない）機会をどうもっていくか考慮していきます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8	4	時間のある限りは参加するにつとめています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	11	1	連絡帳や送迎時以外にも個別に必要と判断した場合は連絡を入れ、共通理解をはかっています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	5	ペアレント・トレーニングは積極的に取り入れたいと研修の申し込みは入れております。がまだ機会をありません。	複数職員の研修への積極的な参加。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12		見学や契約を通して利用始めに説明を行っております。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12		主として面談を通じて保護者の意見、お子様に対しては日々の中での様子からくみとるよう努めております。	お子様ご自身に対してどこまで自覚してもらうか。

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	11	1	計画に取り入れる点は面談時に説明をしているので内容についての理解はその段階で定めています。	同意は得ているものの、ゆっくりと計画について話す時間はあまりないため、要点をいかに認識してもらうかがポイント。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12		面談以外でもご連絡いただいた件は迅速に対応できるよう心がけております。	相談内容が支援方法につながりにくいケースもあります。見直しや状況把握を行い見守れる体制作りを目指します。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	9	3	保護者会・保護者参加型の活動を取り入れています。きょうだい同士の交流についても制限なく参加いただく対応は行っています。	父母の会のついてはお話を伺うことはあるが何うのみでとまってしまっています。きょうだい同士の交流方法も今後検討。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12		苦情はほほえない配慮する箇所などは事前に気をつけるようにしております。	通信などを通して保護者にも目にとまるようにしてくなど工夫していきます。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	12		通信・SNSの活用は定期的に行っております。	どちらも発信が遅れがちです。業務の組み立てをはかり発信が遅れがちになる点を早めに改善していきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12		基本的には各職員が個人情報に対して慎重に扱うことを頭に入れて対応をしています。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11	1	職員間でこのお子さんにはこの対応で理解できるかなど話ごみをおこなっている。違いがあるようであれば再度試みています。	個々によって違いがあるのでよりよい疎通方法をみだしてけるよう検討。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	8	周辺の方々との交流は各職員積極的に行っています。今年度が実現できなかったが他福祉事業所へ出向く事をおこないました。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10	2	閲覧できるようファイルにまとめています。だれもがみれる場所に置かせていただいております。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	3		定期的に行えるよう設定。流れに関してはいちど職員間にて理解をはかっていける時間作り。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	11	1	ご契約時に服薬・発作の有無は確認しています。	発作がある方でも数年でいない方について認識がうすれてしまうので面談等通じて状況をみていくよう対応していきます。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11	1	アレルギーに関して医師の指示書を保護者より伝達していただいております。	指示書の写しをいただくとともに食物アレルギー者への細心の注意をはらっております。取り入れてしまった際の対応理解。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	2	作成しまとめてファイリング。	安全計画に見直しをはかり来年度につなげていきます。計画が紙面だけにならないよう実行・確認を組み込んでいきます。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10	2		家族連携につながる計画の見直しをはかります。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10	2		活用が全くといっていいほどできていないことが課題。記録を残すことになれるように行っています。記録の意識付け。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11	1	チェックシートや事例をだしながら研修を行っています。自分の支援を振り返る場としても行っております。	全職員が理解した上での継続した支援ができるよう所要所で振り返り、次につなげていけるよう対応していきます。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	3	日常の支援の中で身体拘束にあたるか否かの話ごみは行っており、行う際は最善の注意をはらって対応しております。	身体拘束については決して当たり前ではないことを全職員が理解し、支援方法において判断していくことを継続していきます。	